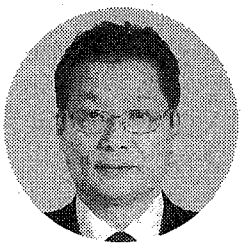
中経論壇

鈴憲毛織社長
藤澤　亨



風評は産業盛衰のバロメーターか

レピュテーション・リスク

「あの会社、気をつけた方が良いらしい」

「尾州カラス」と揶揄（やゆ）する人も居るが、そのカラスのささやきは、さざ波のように広がっていく。大声で啼（な）くからカラスなのだろうが、それがささやくのだから陰湿さを帯びる。「気をつける」話に具体性も何もあったものでは無い。

商売の競争相手がささやくならまだしも、取引先の商社辺りにもその輩が居ることもあり、始末が悪い。何せ、取引上決算説明をする相手である。カラスの前では、コンプライアンスなどどこかに吹っ飛ぶ。

中国の台頭などの影響を受け、毛織物で一世を風靡した尾州にも往時の勢いは無い。商・工の連携で産地としての生き残りを図らねばならない時期に、このカラスのささやきである。

当社は建て直しの最中であるからこそ、このレピュテーション・リスク（風評被害）には殊更（ことさら）、神経を遣わざるを得ない。

企業評価は伝統的に会計財務データに基づいて為されてきた。しかし、昨今、調査会社の企業ランキング数値には、市場要因、信用要因、人的要因などが加味され、更に風評も重要な要素と見做（みな）されるようになった。

レピュテーション（風評）とは、「企業行動やそれに係わる情報を前提として得られる、利害関係者の与えた評価の集積」と定義できよう。評価の集積であるから、そこにはプラス・マイナスの双方向性があるのだが、風評の日本語訳にはどちらかといえばネガティブな印象が強い。

風評が流布される範囲が広ければ、そこには自浄作用が働き、タチの悪い風評もそれなりに中和されるだろうが、一地域の一産業という狭いエリアではそうは行かない。取引先の管理サイドが過敏に反応し、取引そのものに影響が出る。

尾州のような、いわば閉鎖的な環境においては、たとえ金融機関といえどもその発信源となり得ることを、敢えて注意喚起したい。融資先のリスクを評価する側が、そのリスクを生み出す可能性すら存在するのである。

SNSにおけるツイートと同じく、匿名性の高い発言ほど無責任なものは無い。自らの意見を口にし、他者を評価し批判するのであれば、己を晒（さら）せと言いたい。「ささやき」や「つぶやき」が責任不在で発せられ、誤った方向の世論を形成しかねない恐ろしさを憂う。

「気をつけるべきはあなた方ですよ」

ある所で陶磁器業の風評被害は尾州以上ですよと聞いた。風評は産業盛衰のバロメーターなのかも知れない。

オープンカレッジ

多様性対応は柔軟性と寛容さ

障害者権利条約と学校教育の転換

国連「障害者の権利に関する条約」（以下、「障害者権利条約」）を日本では、二〇一四年に批准した。この条約は、「障害に基づくあらゆる差別の禁止」と、障害者が「全ての人権及び基本的自由を完全に享有する」ことを目的としており、障害者の権利保障について当事者の意思や決定を尊重するという原則、つまり当事者の声を反映させる必要性を明確に打ち出している。

「障害者権利条約」は、インクルージョンの思想、すなわちすべての人を排除しない社会への転換を目指す思想の流れを根底に持っている。障害に基づく社会参加からの疎外は、インク

28日、国会近
「石破派」の
も、仮に政権
それを目指し
ポスト安倍」
で、石破氏を
相ら国会議員

者が社会参加
必要な手立て
慮（reas
accom
on）」とし
「合理的配慮
い場合は「障
別」にあたる
ている。
「合理的配
ば、難聴者に
報の提供のよ
言えば「合理
「それがあれ
とができる」
る。「障害者
第二条には、
について「特
いて必要とさ
書かれており
が必要な事項
て異なるため
必要とされる
教育の場に
理的配慮」の

て、「障害者
批准する以前
ねられてきた